

「共感(認め合う心)・探究(学ぶ力)⇒飛躍(社会に貢献する姿勢)」

- 基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成(知)
- 多様性を認め共感する力の育成(徳)
- 生命を尊ぶ健康な心と身体の育成(体)
- 様々な他者と関わり合い、社会に貢献する態度の育成(公・開)

学校概要	創立 80 周年	学校長 市村 美穂子	副校長 千葉 晋輔	2 学期制	一般学級: 20	個別支援学級: 5
	児童生徒数: 736 人	主な関係校: 瀬谷小学校、大門小学校、上瀬谷小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	瀬谷中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分の考えをもち、他者の思いや考えを認めながら自分自身を高める力	瀬谷中学校 瀬谷小学校 大門小学校 上瀬谷小学校	自分の考えを自らの言葉で発信し、伝え合う子ども 他者との違いや良さを自分の成長につなげる子ども ・子どもが考えたり考えを発信したりする場面を意図的に設定した授業を日々展開する【授業研究会】。 ・行事において、できる限り子どもの声を生かし、子どもが主体的に活動する場面を設定する【拡大ハマロードサポーター・各校行事等】。

中期取組目標	<p>○安全・安心な教育環境を土台に、<b>生徒の主体的な学び・活動を支援し</b>、学力と人間性をバランスよく育成します。</p> <p>・<b>生徒の声・データを基にICTを活用しながら</b>個別最適な学びや協働的な学びを提供し、<b>生徒自身が「できた」「分かった」「楽しい」と実感できる授業づくり</b>を目指します。</p> <p>・全ての教育活動において<b>生徒主体の取組・「人とのつながり」</b>をもととする意識を大切にさせ、<b>社会情動的コンピテンシー【他者との関係性を築く力】【他者との協働を通して問題解決に向かう力】</b>を育みます。</p> <p>★上記を達成するために、教育活動のあらゆる場面において＜生徒をよく観察して状況をみとる＞＜<b>決定権を生徒に委ね</b>、その取組・学びが深まるよう支援する＞姿勢を大切に、全教職員で指導・支援にあたります。</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①「横浜Study☆Navi」の市学状の分析データを生かして授業を計画すると共に、年二回の生徒による授業アンケート結果を反映したり年二回の研究授業月間を実施したりして授業改善に取り組む。②適切な学習評価の在り方について研修を深める。③AIDリルやICTを積極的に活用し、個別最適な学びの実現に取り組む。④全教科等で <b>生徒が主体的に学習形態を選べるよう授業をデザイン</b> するとともに、自らの考えを表現する力を育成する
徳 道徳教育 人権教育	①生徒が多様な考え方や価値観について考える機会を、道徳・人権教育全体計画に位置付ける。 <b>社会情動的コンピテンシーのうち「共感性」</b> を育むことに重点を置き、各教科等・学級活動・生徒会活動・部活動・学校行事・人権作文その他の全教育活動を通して、社会的認識と対人関係スキルを高められるように、横断的に指導にあたる。②①の土台として、指導する教職員の <b>人権感覚を磨くための研修</b> を、年間を通して計画的に実施する。
体 健康教育	①学校事故未然防止のための安全点検や危機管理研修に、計画的に取り組む。②自ら運動に親しみ体力向上を図り、将来の運動習慣につなげるよう指導する。③健康観察の意義やメンタルヘルスについて理解し、自分の心の健康に関心を深められるようにするとともに、 <b>健康観察のデータ分析を基に必要なケースについて関係機関と連携して支援にあたる</b> 。④ <b>学校給食の目的を理解し、食に関する知識と選択力を育む</b> 。
公開 地域との連携	①教育活動(人権教育・不登校支援・環境教育・キャリア教育・行事の安全対策等)への地域の財の利活用を図る。②ブロック学校運営協議会での発信を通して、学校経営方針や教育活動について地域の理解を仰ぐ。③GREEN EXPO2027を機にSDGsの視点で、 <b>生徒が主体となって身近な課題や社会課題の解決に向けた活動(花植え活動等)ができるよう支援する</b> 。④学校だより、学校HP、「note」等を活用して <b>教育活動の様子を発信するとともに、生徒自身が学習成果や考えを表現する場としても活用する</b> 。
いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止対策委員会を機能させ、組織的な対応を徹底する。②いじめ未然防止の観点から、定期的な教育相談にY-Pアセスメント、学校生活アンケート、心の健康観察等のデータも活用しながら、子どもの変化を丁寧に見取る。③ <b>生徒主体のいじめ防止の取組(横浜子ども会議、ピンク・シャツデー等)を推進する</b> 。
人材育成・組織運営(働き方)	①職場の心理的安全性を大切にする教職員集団を構築する。②①を推進するために、中堅教員(アボカドの会)の意思疎通を図り、意見のボトムアップやメンター研修(初任者研修とも連携)の充実につなげる。③全教職員が、自分事として働き方改革について考える機会(働き方改革懇話会)をもち、具体的な行動目標を設定する。④ <b>教育DX推進のための組織の在り方を検討する</b> 。
特別支援教育	①職員会議の度に、授業の進め方、指示の仕方、使用するプリントや板書の在り方等、UDの視点の指導スキル、SSTの手法を身に付けるための研修を定期的に行う。②関係機関との連携を含めた具体的な支援のため、適時にカンファレンスを実施する。③ <b>サポートルームや自宅への授業配信や朝学活等への参加、オンライン学習教材の活用など、ICTを活用した学習支援を充実させる</b> 。
生徒指導	①「生徒指導提要」に基づいた、発達支援的かつ組織的な生徒指導体制を構築する。②不登校生徒の支援計画を作成し、関係機関との連携を含めた具体的な支援のため、カンファレンスを充実させる。③ <b>生徒の声を反映させた校則検討を継続して行う</b> 。
生徒活動の充実	① <b>互いの個性や活躍を認め合う親和的な学級集団づくり</b> を図るために、学級経営について学び合い、 <b>横浜プログラム(Y-Pデータ分析)を活用する</b> 。②常任委員会や評議会等生徒会組織どうしの連携を図りながら、 <b>生徒会本部役員が中心となり、より良い学校生活の在り方について主体的に検討し発信できるよう支援する</b> 。③(創立80周年に関連したイベントも含め)各行事の実行委員会、学級委員会、学級組織の更なる充実を図り、 <b>生徒が企画・運営に関わる機会を積極的に設ける</b> 。
担当	

※緑字：社会情動的コンピテンシーの育成 赤字：子どもの意見の反映/主体的な態度の育成 青字：データ・ICTの活用 に関わる内容です。